

授業名称： GIS を活用した災害情報の共有・可視化による  
災害対応業務の高度化に向けた演習

シラバス

概要：

防災分野（特に災害時の対応）における地理空間情報や GIS の活用について、活用できる（すべき）地理空間情報とその所在、GIS の機能や基礎知識を習得することで、自らの地域における災害対応業務の効率化・高度化を図るための企画・立案や、統合型 GIS を通じて組織横断的な連携・業務改善に向けた発想力を身に付けるための GIS 演習を実施する。

学習目標：

- ① GIS を使った避難勧告等発令までの情報収集・被害状況の可視化を理解できる。
- ② GIS を使った災害発生後の被害情報共有・災害対応業務の高度化を理解できる。
- ③ 災害履歴の蓄積・住民への情報提供から地理空間情報の二次利用効果を理解できる。

受講対象：

地方公共団体等において、防災に関連する業務に従事し、GIS 活用に取り組んでいる、または取り組もうとしている職員。

- (1) 防災部門に所属し、的確に災害予防対策等を行う人材
- (2) 福祉部門に所属し、災害時の要援護者避難などの面で防災部門と協力・連携する人材
- (3) まちづくり部門に所属し、防災施設の整備・改良などの面で防災部門と協力・連携する人材
- (4) 情報部門に所属し、災害情報の集約・可視化・共有などで各部門と協力・連携する人材
- (5) その他防災に関わる業務全般に関して、地理空間情報の活用に取り組む人材

教育手法：

岐阜県の県域統合型 GIS を用いた演習方式で実施する。

担当講師及び講師の必要要件：

GIS や地理空間情報に関する基本的知識と、岐阜県の県域統合型 GIS の基本操作を理解していること。

参考資料：

- (1) 岐阜県の県域統合型 GIS の基本操作
- (2) (必要に応じて) 演習シナリオ操作マニュアル
- (3) (必要に応じて) 事例 (消防団・水防団からの無線通報)

キーワード：

統合型 GIS、地理空間情報の利用、業務改善、GIS 展開への発想力